

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

【分科会 1（第 5 回）】 議事次第

令和 7 年 2 月 2 8 日（金）

1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0

（オンライン開催）

○「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方

1 開会

2 議題

（1）経過説明

- ・令和 6 年度のつながりサポーター養成の取組に関する報告
- ・今後のつながりサポーター養成の展開について
- ・令和 7 年度孤独・孤立対策強化月間について

（2）意見交換

（3）その他

3 閉会

分科会1 (第5回) プログラム

■日 時 令和7年2月28日(金) 11:00~12:00

■開催方法 Microsoft Teams ズームを活用したオンラインミーティング

■プログラム

時間	項目	担当(進行)	資料
11:00~	プログラムおよび配布資料の説明	内閣府	有(議事次第)
11:02~ (23分)	経過説明	あなたのいばしょ ／新公益連盟	有
11:25~ (30分)	意見交換	同上 ・大西政策参与	無
11:55~	事務連絡	内閣府	無

令和 6 年度における つながりサポーター養成の取組に関する報告



目次

- 01 背景
- 02 つながりサポーター養成講座の方向性について
- 03 令和6年度における取組について
- 04 有識者検討会について
- 05 養成テキストについて
- 06 令和6年度における実施事業について
- 07 こども若者★いけんぷらすの実施について

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 分科会1：「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方 これまでの検討成果の概要

令和4年10月7日

1. はじめに

- 「孤独・孤立対策の重点計画」(R3.12.28)の基本方針(1)をテーマとして、「支援を求める声を上げやすい・声を受け止める・声をかけやすい社会」に向けて、**孤独・孤立の理解・意識や機運を社会全体で高める取組の在り方**を検討。
(※方針(1)：孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする)

2. 検討の視点

- 「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(R3)」の結果を踏まえ、以下の**3つの視点から課題と対応策を検討**。
①**制度を知らない層**
②**制度は知っているが相談できない層**
③**相談者(相談を受ける人)になりうる層**

3. 現状と課題

4. 対策案

※ 対策案については、速やかに取り組むことが基本であるが、中長期的に取り組むものも含め、以下のようなことが考えられる。

① 制度を知らない層

- 当事者や家族に必要な情報が届くよう、**制度・情報に触れる機会の増加**が必要
- 「**プッシュ型**」、「**アウトリーチ型**」による**予防的な関わり**強化(※転入・転出、母子健康手帳交付時等)
- 制度や相談先の情報サイトやポータルサイト等を公共機関等のHPに掲載
- 検索運動型の広告・ポスター
- **孤独・孤立対策強化月間・週間**
- 地域で制度を学ぶ・周知の機会 等

② 制度は知っているが相談できない層

- 相談ハードルを下げる**、相手への迷惑負担への配慮、**遠慮・我慢をなくす**が必要
- 制度や相談機関と接する機会の増加
- **申請負担感の削減(オンライン化等)**
- イベントやキャンペーンによる効果的な周知
- **孤独・孤立対策強化月間・週間**
- **制度活用は権利**であることの**認識周知**(例：アウティング防止、「主訴がわからない」= どうしたらよいかわからない状態)者への広告)
- **行政と民間団体の連携促進** 等

③ 相談者(相談を受ける人)になりうる層

- 社会的理解や関心**、関われるタイミングやきっかけ、**ためらいの弊害の除去**が必要
- 身近な**実践者の事例紹介**
- 様々なライフステージにて支え手になる方法を学ぶ**活動の実施**
- **認知症サポーター養成事業**のような**仕組み創設**
(※2005年開始、1,391万人(R4.6末)、全国統一のテキストによる90分程度の講座)
- **ゲートキーパー等の既存の取組を推進**
- コーディネートやサポート体制の整備 等

④ その他

- 支援に関わる者は、孤独・孤立の実態(実態調査の結果等)を基礎知識として備えておくことが必要。
- **地方版官民連携プラットフォームを活用した好事例の構築・全国への普及**、自治体の幹部を含めた理解促進が重要。

5. おわりに

- 「4.対策案」は、**広く官民が連携し、相談者になりうる層の育成を基盤にして**孤独・孤立対策強化月間等に集中的に取り組むことが効果的。
- **分科会1**としては、各種取組の進捗を確認しながら、**孤独・孤立の社会環境の変化や実態を把握しつつ、さらに検討**。
- なお、「**プッシュ型**」「**アウトリーチ型**」の**支援**については、**分科会2、分科会3の議論とも連携しながら検討**。

③相談者(相談を受ける人)になりうる層については、

「『認知症サポーター養成事業』を参考に、孤独・孤立の理解者を増やす活動として同養成講座のような仕組みを設ける。」とまとめている。

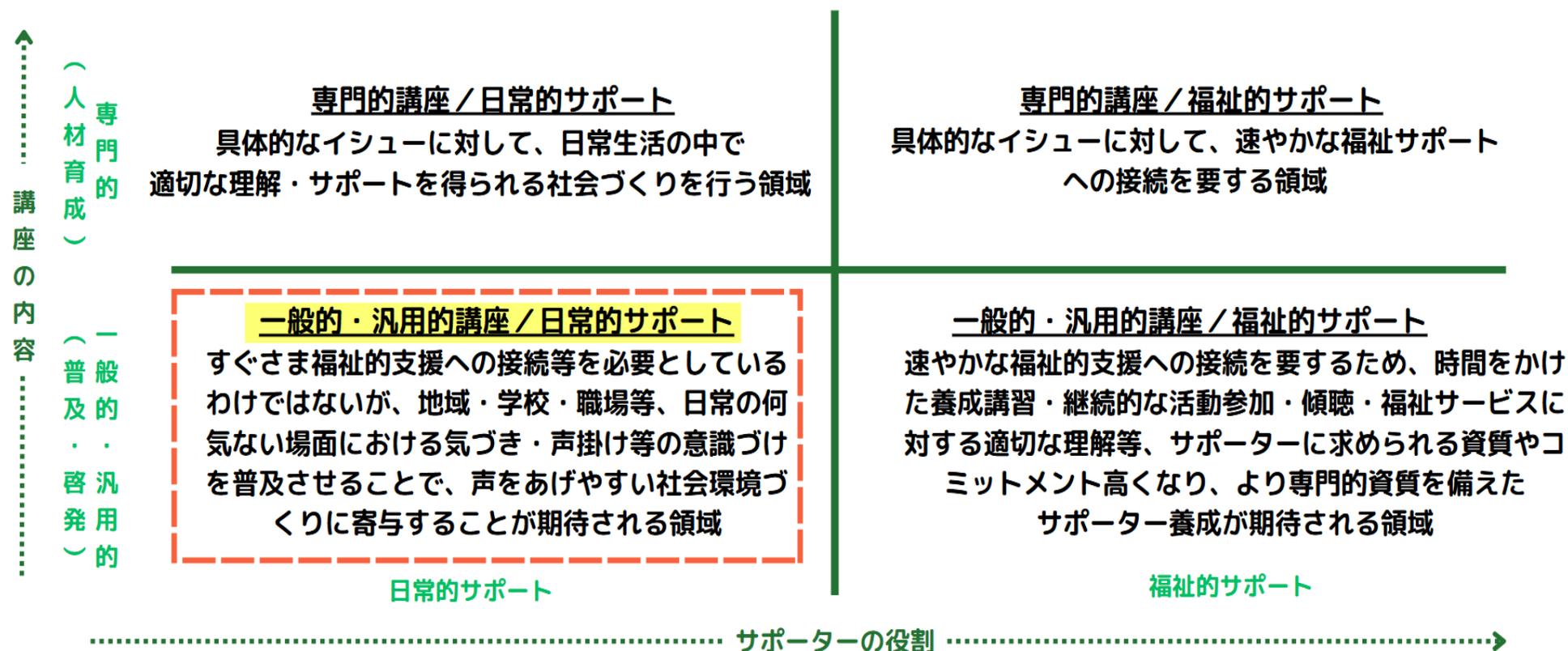
⇒孤独・孤立についての理解・意識や機運を社会全体で高めていくために、

孤独・孤立の問題を抱える当事者等をサポートする人材(つながりサポーター)を養成する必要。

「**つながりサポーター**」を養成するため、**標準テキストの作成等、サポーターを養成するための仕組みづくり**を目的。

つながりサポーター養成講座は、孤独・孤立に関する問題の普及・啓発を目的とする。

孤独・孤立にも関連する既存の養成講座が存在する中で、(ゲートキーパー、ひきこもりサポーター等) 近接する他領域の養成制度との棲み分けについて下図のとおり整理

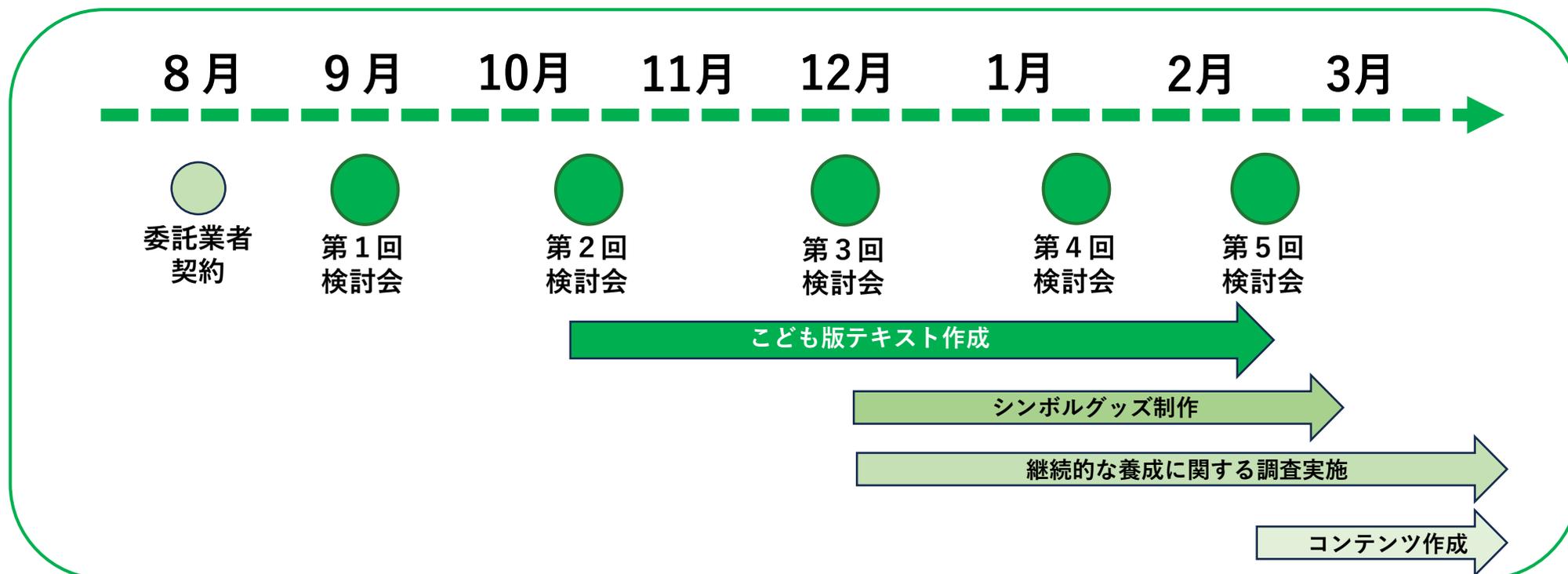


つながりサポーター養成講座

→ 普段から福祉に携わっている人だけでなく、専門的知識をもたない国民全般も対象とした。

→ 専門家を育成するのではなく、日常の何気ない場面での気づきや声掛け等の意識づけを促し、声を上げやすい社会環境づくりをしてきたための普及・啓発を主たる目的としている。

令和6年度における取組について



2024年8月 委託業者(株式会社Ridilover)との契約

9月 第1回有識者検討会(以下「検討会」)、養成講座実施団体募集開始

10月 第2回検討会(第1回こどもWG)

11月 こども若者★いけんぷらす実施

12月 第3回検討会(第2回こどもWG)

シンボルグッズ作成((株)デザインアンドデベロップメント)

継続的な養成に関する調査開始((株)野村総合研究所)

2025年1月 第4回検討会(第3回こどもWG)、採択団体への養成講座実施

2月 第5回検討会(第4回こどもWG)、周知用コンテンツ作成開始((株)TOPPAN)

つながりサポーターの養成に関する意見の収集・分析を行うことを目的として、孤独・孤立対策に関わりのある有識者により構成される検討会の設置および運営を行なった。

【検討会有識者構成】

氏名	所属
井澤 徹	特定非営利活動法人新公益連盟
石井 綾華	特定非営利活動法人 LightRing. 代表理事
川口 寿弘	鳥取県鳥取市 総務部人権政策局 次長／中央人権福祉センター 所長
北村 肇	特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構 事務局 次長
清水 達也	一般社団法人日本産業カウンセラー協会 執行理事
根岸 督和	特定非営利活動法人あなたのいばしょ 理事長
原田 正樹	日本福祉大学 学長

第1回

令和6年9月3日

- 今後のスケジュールの確認
- シンボルグッズの検討

第4回

令和7年1月15日

- こども版テキスト作成に向けた検討
- こども若者★いけんぷらす結果報告

【有識者】津田 顕吾 様(さいたま市教育委員会 教育研究所 所長)

第2回

令和6年10月29日

- こども版テキスト改訂方針案の検討

【有識者】中井 俊雄 様(ノートルダム清心女子大学人間生活学部人間生活学科准教授)

第5回

令和7年2月19日

- こども版テキスト作成に向けた検討
- 学習指導案の作成に向けた検討

第3回

令和6年12月4日

- こども版テキスト作成に向けた検討
(イラストの挿入、表現の工夫)

【有識者】松浦 直己 様(三重大学教育学部特別支援教育コース教授)
横山 美江 様(大阪公立大学大学院看護学研究科教授)



養成テキスト（大人版）について

つながりサポーターの養成に必要な基礎的知識や求められる能力等をまとめた標準テキストを作成。また、養成講座の将来的な展開に向けて、講師に特別な資質や能力を求めず、誰でも講師を務めていただけるように、標準テキストの章ごとの時間配分の目安や、留意事項および各スライドにおける解説例を示した“講師用テキスト”も作成。（※いずれも令和5年度に作成）

<養成テキスト>

	項目	時間目安
1	はじめに	5分
2	孤独・孤立の何が問題か	13分
3	つながりを考えてみよう	5分
4	調査結果からわかること	8分
5	困ったときどうする？	12分
6	相談窓口を知ろう	12分
7	地域の活動を知ろう	3分
8	最後に	2分
	参考資料	



<講師用テキスト>

スライド5：孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とは、一般的には以下のように定義されています。

【孤独】 日常の中で、自分自身と密接な精神的なつながりを感じ、寂しいことという感情を覚えることがある、というふうに書かれています。狭いことと広いことを含めて用いられることがあります。

【孤立】 日常の中で、社会とのつながりや助けがない、または少ない状態を指す、このように書かれています。

孤独・孤立は密接に結びついています。『孤立しているが孤独は感じていない』や『孤立していないが孤独を感じている』といったこともあります。

大事な点は一人であるという、誰かとなつなつていないということです。一人でいること自体が問題というわけではなく、困りごとが生じた際に一人で抱えこんでしまうことであり、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのが問題であるということです。ですので、孤独・孤立というものが何人かの人とつながりを持つことでなく、孤独・孤立に陥りやすくなる状況が問題発生してしまうという点を問題視しているというところが重要な点となります。

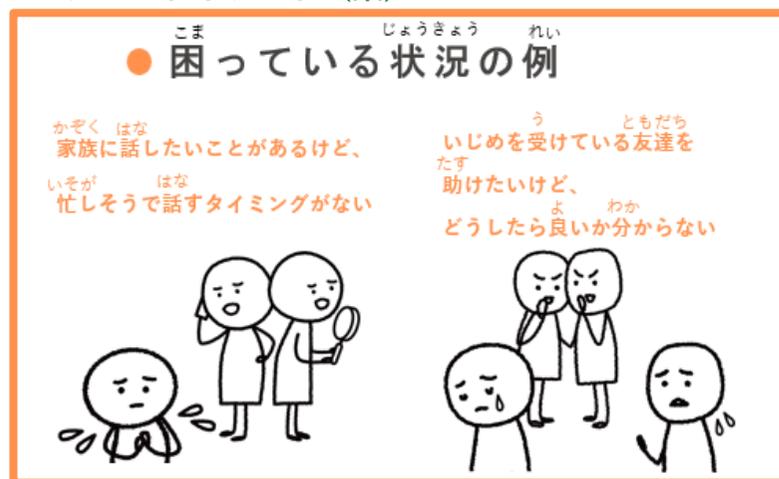
前半では、「孤独・孤立とは何か？」という基本的な知識に加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会背景、身近にある孤独・孤立状態の例、孤独・孤立に関する調査データを紹介する。孤独・孤立は社会構造上発生しており、個人の責任（自己責任）ではないということ、他人事でなく自身や身近なところで発生している問題であることを説明。後半では、個人ワークを取り入れ、自分そして周囲の人が悩みや困りごとを抱えたときにできることを考えていただく。さらに具体的な行動例を示すことで基本的な対応を学ぶとともに、対応する相談窓口や地域活動を紹介する。

つながりサポーター養成講座標準テキストをこども向けにアレンジ。イラストを用いて「孤独・孤立」の状況を示すことで、こどもにも伝わるように工夫。また、将来的には授業の一環で実施することを想定し、指導案の作成にも着手。

《テキスト表紙（案）》



《テキストイラスト（案）》



《指導案（案）》

1. 題材
つながりサポーター養成講座テキスト
2. ねらい
孤独・孤立とはどういう状態なのかという知識や「つながりサポーター」について学び、自分や周りの人が悩んでいる時や困っている時に、誰かを頼ったり、少し気にかけてたりすることについて考えることができる。
3. 本時の流れ

導入 (2分)	ワーク① (8分)	解説(孤独・孤立について知る) (12分)	ワーク② (16分)	まとめ (2分)
------------	--------------	--------------------------	---------------	-------------

4. 本時の展開

	学習活動・内容	指導上の留意点等
導 入 (2)	1. 本時の題材を知る <テキスト1 今日、学習す	<input type="checkbox"/> テキストでも記載のあるとおり、「孤独・孤立が悪いわけではない」ということを事前に伝えておく。 <input type="checkbox"/> 不安や悩みを抱えている等、配慮を 場合、授業中 方法を事前に 伝えておく。
	<テキスト2ページ> 今日、学習すること②	<input type="checkbox"/>
ワ ク ①	2. 孤独について、それぞれが感じ方が 違うことを体感する <テキスト3～5ページ> 「孤独」ってどんなイメージ？ ・XXXXX ・XXXXX	<input type="checkbox"/> XXXXX <input type="checkbox"/> XXXXX
	発問1	
(8)	<テキスト6～7ページ>	<input type="checkbox"/> XXXXX

令和6年度における実施事業について（養成講座）

つながりサポーターの養成に向けた取組として、全国各地でつながりサポーター養成講座を開催。
37団体の応募の中から参加者の属性等を考慮し、15自治体と9団体を採択。（合同開催あり）
なお、講師には有識者検討委員会の委員も参加した。

	実施団体	開催日時	参加者	参加人数 (予定を含む)	開催方式	講師
1	秋田県	1月16日 (木)	行政職員、関係団体・支援団体職員	67人	対面／オンライン	根岸委員
2	一般社団法人こども宅食応援団	1月17日 (金)	全国のこども食堂運営スタッフ	24人	オンライン	はれの日サロン 中井様
3	徳島県／阿南市／小松島市	1月20日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員、市民	90人	対面／オンライン	清水委員
4	株式会社ハピクロ (北九州)	1月21日 (火)	民生委員、NPO等職員、市民	50人	対面	(実施団体に講師を担当)
5	春日井市	1月22日 (水)	行政職員、社会福祉協議会、地域福祉アドバイザー	22人	対面	一般社団法人Shien 代表理事 山田様
6	神奈川県／座間市／綾瀬市／海老名市／大和市	1月24日 (金)	行政職員、関係団体・支援団体職員	55人	対面	井澤委員
7	福山市	1月27日 (月)	行政職員、社会福祉協議会職員、民生委員	45人	対面	井澤委員
8	川口市	1月27日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	54人	対面	清水委員
9	滋賀県	1月28日 (火)	行政職員、関係団体・支援団体職員	75人	オンライン	川口委員
10	仙台市	1月29日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民 (大学生)	34人	対面	井澤委員
11	群馬県	1月29日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民	72人	対面	社会福祉法人愛宕福祉会 川崎様
12	認定NPO法人わかやまNPOセンター	1月31日 (金)	民生委員、NPO等職員、市民	44人	対面／オンライン	清水委員

令和6年度における実施事業について（養成講座）

	実施団体	開催日時	参加者	参加人数 (予定を含む)	開催方式	講師
13	東京海上日動火災保険	2月3日 (月)	東京本社、神奈川支店等職員	25人	対面／オンライン	井澤委員
14	埼玉県／東松山市	2月5日 (水)	民生委員、NPO等職員、市民	73人	対面／オンライン	清水委員
15	社会福祉法人京都総合福祉協会	2月8日 (土)	関係団体・支援団体職員、市民	16人	対面／オンライン	清水委員
16	福井市	2月10日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	22人	対面	清水委員
17	特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン	2月12日 (水)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	55人	対面	(実施団体で講師を担当)
18	長崎県	2月13日 (木)	行政職員、関係団体・支援団体職員	50人	対面／オンライン	大西参与
19	熊本市	2月14日 (金)	PF参加団体、PF参加を検討中の団体、行政職員	53人	対面／オンライン	大西参与
20	広島県	2月15日 (土)	行政職員、民生委員、NPO等職員、市民	41人	対面／オンライン	根岸委員
21	一般社団法人ひふみよ (北海道)	2月15日 (土)	民生委員、NPO等職員、市民	8人	対面／オンライン	清水委員
22	富山県	2月17日 (月)	行政職員、関係団体・支援団体職員	79人	対面／オンライン	根岸委員
23	社会福祉法人袖ヶ浦市社会福祉協議会	2月21日 (金)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	63人	対面	清水委員
24	一般社団法人Re-Start Project (大阪)	2月22日 (土)	行政職員、関係団体・支援団体職員、民生委員、NPO等職員、市民	60人	対面	(実施団体で講師を担当)
	福山市	2月25日 (火)	福山市立城北中学校中学1年生、教員、支援団体職員、市民	238人	対面／オンライン	大西参与



広く国民の理解を深めるため、受講証としてピンバッジを配布。

ピンバッジを着用して活動していただくことで、孤独・孤立の問題を抱える方への支援を円滑なものとするのと、制度の周知啓発が目的。

裏面には「あなたはひとりじゃない」のQRコードが掲載されている。



あなたはひとりじゃない
<https://www.notalone-cao.go.jp/>



各自治体や民間企業において、自発的な養成講座の開催が可能となるよう、養成講座動画や講師向け研修用動画のほか、著名人に出演いただく広報動画等を作成。また、全国的に取組を展開していくにあたり多くの人から親しみを持ってもらえるよう、ヒカリノを使用したステッカーや待ち受け画面、窓口に置くバルーン制作を行う。

※構想段階



▼スマホ待ち受け画面イメージ



▼PC壁紙イメージ



12ヶ月待ち受けカレンダーテーマ ヒカリノと人と人のつながりシチュエーション			
月	行事催事イメージ	月	行事催事イメージ
4	桜花満開	10	トック・オア・トード
5	こいのぼり	11	紅葉狩り
6	雨の日の傘	12	クリスマス
7	夏祭りの凧揚げ	1	こたつでほっこり
8	海水浴	2	ゆきあそび
9	秋の収穫	3	楽しいピクニック



P5「全体構成」参照

ヒカリノアニメーションブロック

自己紹介～冒頭導入

※音声は合成音声を仮当てしています

テキスト解説ブロック

「つながりサポーター養成講座」

標準テキスト P2 「はじめに」

つながりサポーターとは？



こども版テキストの作成にあたり、対面・オンライン・WEBアンケートの3つの方法でこどもたちの生の声を聞き取った。

【不安や悩みを誰かに相談することができますか】という設問(Q.7)について、約80%が「はい」と回答している中で、「相談するのは気まずい」、「適当な人に話すと「無視すればいいじゃん」と軽く扱われてしまいそう」など、こどもの正直な気持ちが表れる回答がみられた。

また、【まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、声掛けや手助けをしようと思えますか】という設問(Q.17)に対しては約70%が「しようと思う」と回答している中で、「手を差し伸べるというイメージがわからない」「どのように行動してよいかわからない」といった課題点も見つかり、調査の結果を踏まえ、こどもに向けたつながりサポーター養成講座の有用性も明確になった。

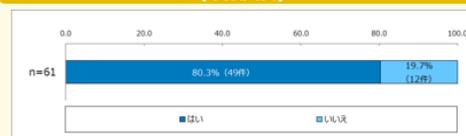
アンケートの質問内容

こどもみんなの
こども家庭庁

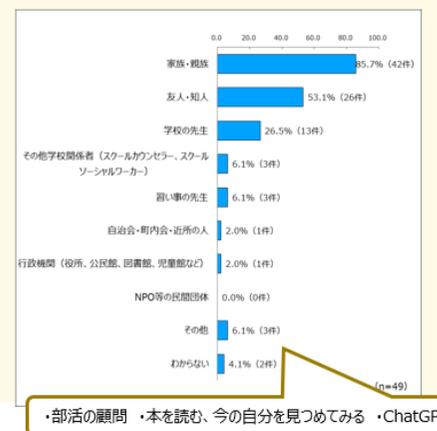
①不安や悩みを相談することについて	Q1	年代
	Q2	性別
	Q3	あなたには困った時に頼れる人はいますか。
	Q4	あなたは普段生活している中で、不安や悩みを感じることはありますか。
	Q5	(問4で「ある」と回答した方のみ) 不安や悩みはどのような内容ですか。
	Q6	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q7	あなたは不安や悩みを誰かに相談することができますか。
	Q8	(問7で「いいえ」と回答した方のみ) 不安や悩みを相談できないのは、あなたがどのような気持ちになるからですか。
	Q9	(問7で「はい」と回答した方のみ) あなたは誰に相談をしますか。
	Q10	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
②相談窓口について	Q11	あなたは不安や悩みを相談することについて、どのように感じますか。
	Q12	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
	Q13	あなたは不安や悩みを抱えている人のための相談窓口を知っていますか。
	Q14	(問13で「知っている」と回答した方のみ) 相談窓口を利用したことがありますか。
	Q15	(問14で「利用したことがない」と回答した方のみ) 相談窓口を利用したことがない理由は何ですか。
	Q16	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
③悩みや不安を抱えている人へのサポートについて	Q17	あなたは、まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思えますか。
	Q18	(問17で「しようと思わない」、「わからない」と回答した方のみ) その理由をお答えください。
	Q19	前の質問の「その他」について詳しく教えてください。
④孤独を感じることに	Q20	あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。
	Q21	現在の孤独感(問16で回答した状況)に強く影響を与えたとと思われる出来事はどれですか。
	Q22	前の質問の「その他の出来事」で選んだ出来事について詳しく教えてください。

1. 不安や悩みを相談することについて

Q7. あなたは不安や悩みを誰かに相談することができますか。
(単数回答)



Q8. (Q7で「はい」を選んだ方のみ) あなたは誰に相談をしますか。(複数回答)



・部活の顧問 ・本を読む、今の自分を見つめてみる ・ChatGPT

不安や悩みを誰かに相談することができますか。

〈場合による〉

- 電話相談できる窓口はあるが「わざわざ電話してまで相談することじゃないかも」という気持ちがあるかもしれないので、対面で相談できると良い。
- 真剣に人に話さなれないと思う。適当な人に話すと「無視すればいいじゃん」と言われるように軽く扱われてしまうかもしれない。
- 身近なところで相談できると良い。

〈難しい〉

- 人に相談することは今のところハードルが高い。
- 相談する相手を選ぶ難しさがある。
- 相談するのは気まずい。
- 電話をかけることによって何がかわるかわからず、緊張する。現状を変えてほしいが、変えられるのも困るということもある。
- カウンセラーとはあまり話したことがないので、相談することにドキドキしてしまう。一方で、友達に相談しても確実に解決してくれるというわけではないので難しい。

相談できる人・頼れる人はいますか。

〈いる〉

- 本当に仲が良い友達だけ。
- だいたいはお母さんに相談する。
- 保健室の先生に絶大な信頼を置いている。
- 相談事と無関係の友達に相談する。
- 問題になっている人とは開きたくない。先生と相談する。
- 関係する人と相談し、意見を聞き入れる。
- 自分から相談するというよりは、周りの人に声をかけてもらえる。

〈他の解決策〉

- 人に相談することが不安になる悩みはChatGPTやアプリなどで相談する。
- 自分一人に対処してしまう時のほうが多い。

○対象 : 「こども若者★いけんぷらす」の「ぷらすメンバー」に登録している小学4年生～中学生

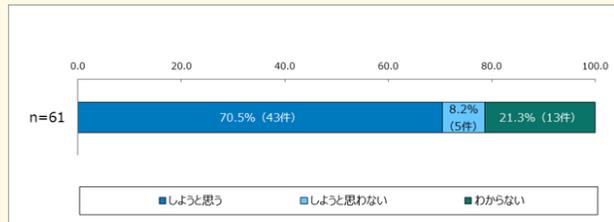
○回答内訳 : 対面6名、オンライン4名、WEBアンケート61件

○集計結果 : (間に合えばHPのリンク)

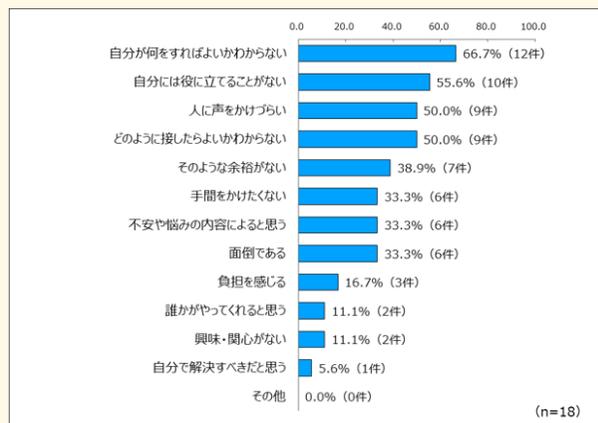
3. 不安や悩みを抱えている人へのサポートについて

こどもみんな
こども家庭庁

Q17. あなたは、まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、積極的に声掛けや手助けをしようと思いますか。(単数回答)



Q18. (Q17で「しようと思わない」または「わからない」を選んだ方のみ) その理由をお答えください。(複数回答)



まわりの不安や悩みを抱えている人に、声掛けや手助けをすることについて、どう思いますか。

〈手助けする〉

- 困った人がいた時に放っておくと自分の中で悔いが残る。
- 〈しない・どうしたらいいかわからない〉
- 自分が大変な時は自分のことに没頭してしまい、他人のことを考えられない。
- 悩んでいることを知っているでも声をかけない。困っている人に対して、「困っているなら人を頼ればいいのに」「自分から話しかけてほしいのに」と思う。
- 周りで困っている人を認識していない。あまり困っていなさそうだなと思ってしまう。手を差し伸べるといったイメージがわからない。
- 本人が自覚していないが、客観的にみて明らかに困っている状況のとき、どのように行動してよいかわからない。
- 周りから話しかけられて意見を求められることが多い。

他の人が困っている・不安であることを確認する方法

- 日常的に話している人であれば、困っていることや不安に関する話題がいきなり出てくることもある。
- いつも喋っている人だと「なんだか今日は違うな」と思うことがある。
- 困っているということを暗に伝えられるツールがあったら、役に立つと思う。

相談や悩みごとを言やすい人・言やすくなる方法

- その人に話しても他の人にバレないという安心感や「この人に話せば大丈夫」という信頼感がある
- 匿名でつぶやけると、相談しやすくなる
- セラピードッグなど動物に癒してもらいたいと思う。ぬいぐるみがたくさん置いてあってゆっくりできる部屋があると安心できると思う。

相談や悩みごとを言にくい人

- 別の学校に行っている友達には自分にはあまりいないし、いたとしても会って話すことはそう簡単にはできない。
- 忙しい人に相談してしまうと相手にとって迷惑感を考えてしまう。
- 自分勝手に自分の意見を押し付けてくる人には相談しづらい。
- 普段から友達のことをペラペラと喋ってしまう人に相談するのは不安。
- 相談に乗ってくれる人が疲れていると相談する側も嫌だと思う。

4. 孤独を感じることにについて

Q20. あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(単数回答)



ひとりぼっち・孤独を感じる時はどのようなときですか。

- 新型コロナウイルスが流行し、半年くらい休校になったときは、ずっと家において友達とも話すことができず不安だった。
- 友達がいると思ってオンラインゲームを開始したら、友達がいなかったとき。
- 同じ習い事のグループが集まっていて、自分は同じ習い事をしていないからそのグループに入れないとき。
- 部活の練習が終わった後、部員が少しずつ帰っていて一人になっていくときにさみしさを感じる。
- 自分だけ病気になって、身体は治っているのに出席停止期間で休まないといけないとき。

→孤独感が「常にある」「しばしばある」「たまにある」と回答した人が、45.9% (約4割)

令和 7 年度事業の進め方に関するご報告



< 令和7年度の取組イメージ >

- ① こども向けテキストの展開 (新規)
- ② サポーター養成のさらなる発展を目指した取組 (一部新規)

< 令和7年度の取組イメージ >

① こども向けテキストの展開 (新規)

1) 学習指導案および講師用テキストの検討

令和6年度事業で作成した、こども向けテキストについて、
教育現場等で活用いただける、「学習指導案」の作成を進める。

(※令和6年度事業では、学習指導案の骨子まで作成予定)

2) こども向け養成講座の試行実施

こども向けテキストを活用して、小学校高学年～中学生向けの養成講座の試行実施を進める。

(ご報告) 令和7年度事業の進め方について

< 令和7年度の取組イメージ >

② サポーター養成のさらなる発展を目指した取組 (一部新規)

1) 養成講座の実施

令和6年度20団体程度で実施した養成講座について、
令和7年度も引き続き、養成講座の実施に協力いただける団体を募集する。
(令和6年度：20団体 → 令和7年度：○団体?)

2) 受講証明グッズの作成

令和7年度における養成講座の自主開催に前向きな団体(東京海上日動など)にお渡しする、
受講証明ピンバッジの作成を行う。

3) 地域ブロック別の養成講座・意見交換会の開催

地域ブロック単位で、行政職員を対象とした、養成講座と意見交換の機会を設けることにより、
自治体間連携や好事例の横展開を図る。

例えば、

前半：つながりサポーター養成講座の開催

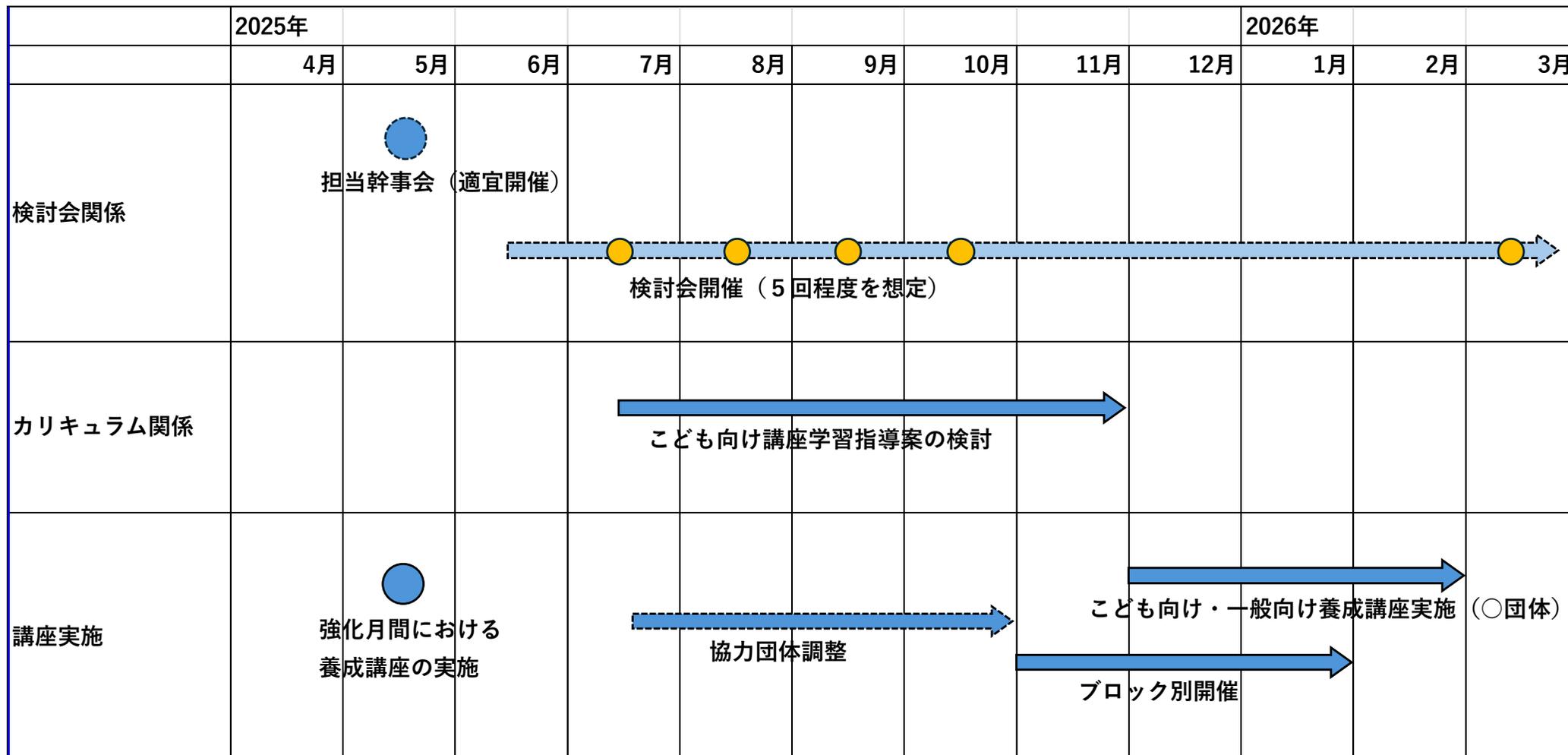
後半：サポーター養成やPF形成など、孤独・孤立対策に関する意見交換会

→ 近隣自治体の担当者間で意見交換を行うことで、

- ・ 孤独・孤立対策を進める上での、PF形成や水平的連携に向けた知見の共有
- ・ 各地域におけるサポーター養成の取組の加速 を目指す。

(ご報告) 令和7年度事業の進め方について

< 令和7年度 of 取組スケジュールイメージ >



→この他、事務局機能の設置や養成目標など、恒常的な体制整備に関する論点は、分科会1本体 および 担当幹事会にて継続的に議論を予定

つながりサポーター養成目標に関するご相談



孤独・孤立^{対策}
官民連携プラットフォーム

(ご相談) つながりサポーター養成目標の設定について

【前提】

「支援を求める声を上げやすい・声をかけやすい社会」の実現を目指し、
孤独・孤立についての理解、意識や機運を社会全体で高めていくための取組の一環として、
つながりサポーター養成の取組を進めているところ。

【課題】

つながりサポーターを養成することにより、
「理想的な状態」「最終目標」を実現するためには、（→声を上げやすい・声をかけやすい社会？）
具体的かつ実現可能な養成目標の設定が求められる。

※具体的な養成目標の設定により、対外的な説明や分科会1構成団体の協力を仰ぐねらいも

【論点】

つながりサポーターの養成を進める上で、具体的かつ実現可能な目標設定を検討する。
(例：「〇年で〇人の養成を行う」など)

※最終的に、分科会1本体での議論を経て決定したいと考えているため、
まずは「どのような目標設定が適切か」、皆様のご意見を頂戴したいと考えております。

(参考) 関連施策との比較

【提案】

つながりサポーターも「〇年度に100万人」を中長期目標として、養成を進めていくのはどうか。

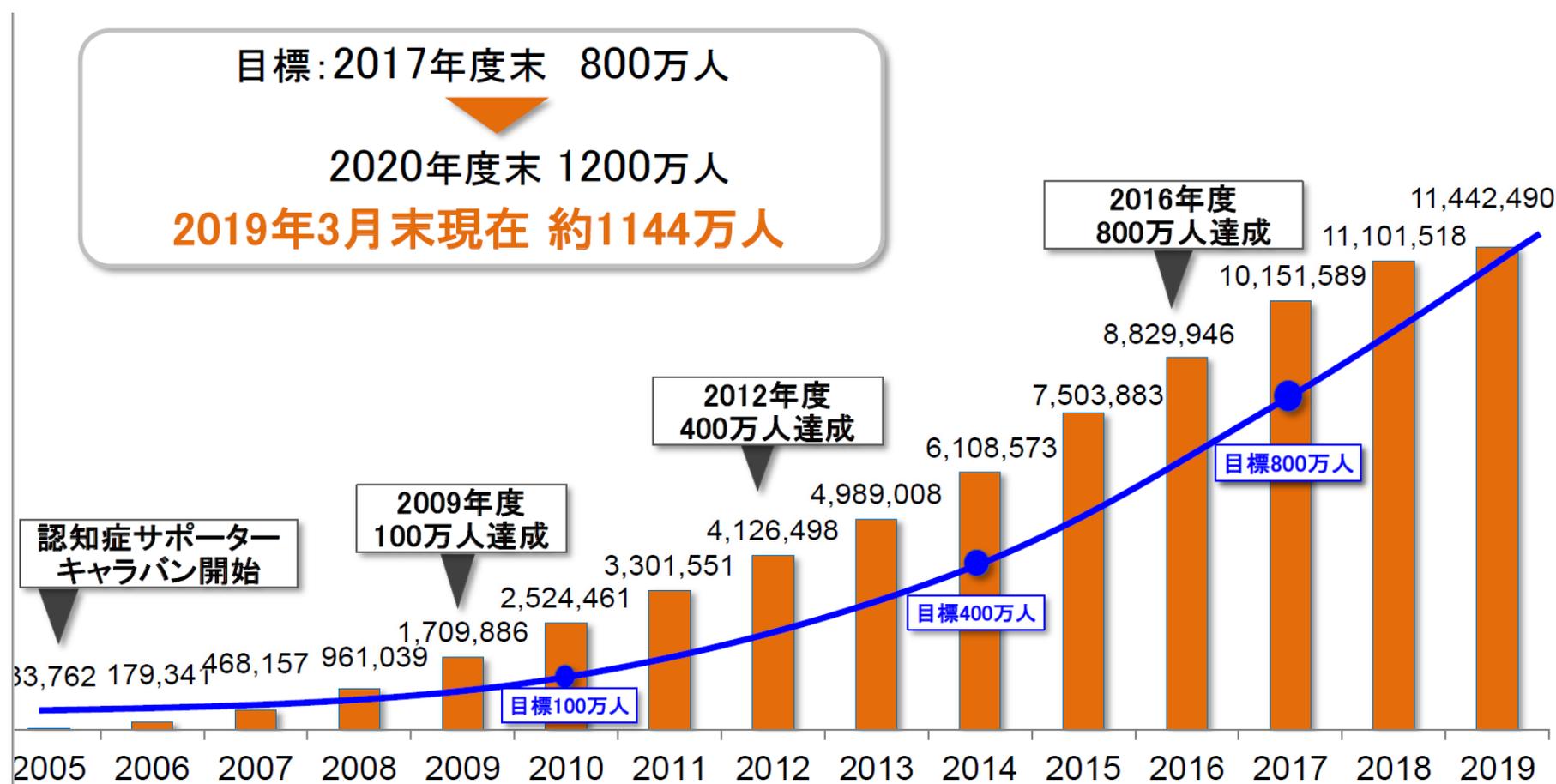
	認知症サポーター	心のサポーター	つながりサポーター
開始年度	2005年	2021年 (本格実施は2024年)	2023年 (本格実施は2024年度)
養成状況	約1,598万人 (2024年12月31日時点)	15,551人 (2024年11月30日時点)	推定 約1,600人 (2025年3月31日見込み。 自発的な講座は人数不明。)
目標設定	2005年 養成開始 2010年：100万人目標 2014年：400万人目標 2017年：800万人目標 2020年：1,200万人目標	2021～23年度：モデル事業 2024年：養成開始 (全国的な展開を開始) 2028年：38万人目標 2033年：100万人目標	
事務局	全国キャラバン・メイト連絡協議会	国立精神・神経医療研究センター (NCNP) に委託	検討予定
講座時間	約1時間30分	約2時間 (90分共通内容+30分選択内容) 選択内容は各自治体が決定。	約1時間
受講対象	地域住民、職域、学校、広域の団体・企業等の従事者など、広く誰でも	子どもから大人まで誰でも	一般市民含めて広く誰でも
実施方法	対面/オンライン (動画視聴のみは不可)	対面/オンライン	対面/オンライン
指導者の資格	認知症介護指導者養成研修修了者 認知症介護実践リーダー研修(認知症介護実務者研修専門課程)修了者 介護相談員 など	医師、保健師、看護師、精神保健福祉士、公認心理師等の国家資格を有しており、精神保健に携わる方、またはメンタルヘルスファーストエイド等の心の応急処置に関する研修を既に受講している方	特別な資格は不要で誰でも講師を担える

(参考) 認知症サポーターの目標設定について

(参考) 認知症サポーターの場合 (認知症サポーターキャラバンHPより引用)

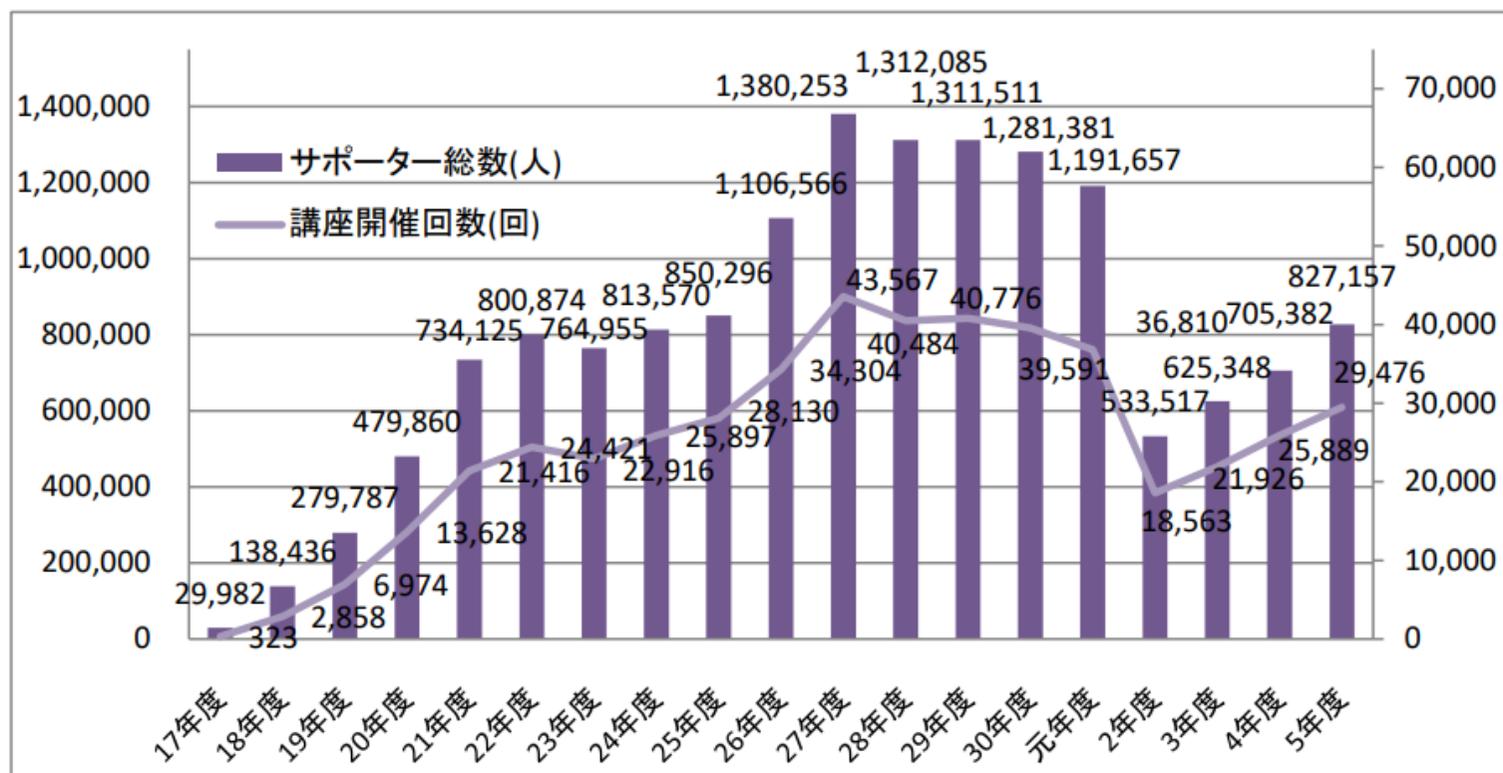
(参考) 認知症サポーターの養成状況 (令和5年度末時点)

- ・ 認知症サポーター数 15,166,742人
- ・ 講座開催回数 477,949回



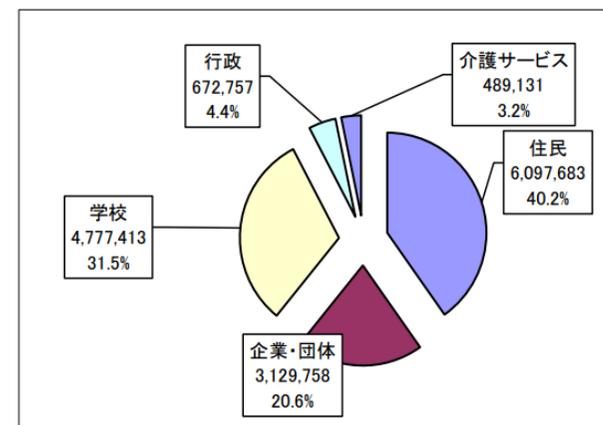
(参考) 認知症サポーターの目標設定について

(参考) 認知症サポーターの場合 (認知症サポーターキャラバンHPより引用)



③ 受講対象者分類別のサポーター数、講座開催回数の内訳

対象者分類	サポーター数	講座開催回数
1 住民	6,097,683	232,874
2 企業・団体	3,129,758	114,798
3 学校	4,777,413	87,451
4 行政	672,757	19,000
5 介護サービス	489,131	23,826



(参考) 心のサポーターの目標設定について

(参考) 心のサポーターの場合 (厚労省公表資料より引用)

- 世界精神保健調査では、我が国の精神障害へ罹患する生涯有病率が22.9%であり、精神疾患は誰でも罹患しうることが報告されている。
- 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る検討会」においても、地域住民への普及啓発を進めるにあたり、メンタルヘルス・ファーストエイドへの賛同が既に得られている。※メンタルヘルス・ファーストエイドとは、地域の中で、メンタルヘルスの問題をかかえる人に対し、住民による支援や専門家への相談につなげる取り組み。
- 今般、新型コロナウイルス感染症に係る心のケアの充実が求められている中、平時からの心の健康への対策や普及啓発は急務である。

※メンタルヘルス・ファーストエイド (MHFA) の実践体制

◆インストラクター

2日間の指導者研修を受講
(研修のコツと実際・模擬研修・評価とフィードバック)

◆エイダー

2日間のMHFA実施者研修を受講
(MHFAの基本理念・うつ病・不安障害・精神病・依存症等への対応)



※心のサポーターの養成体制

◎心のサポーター指導者

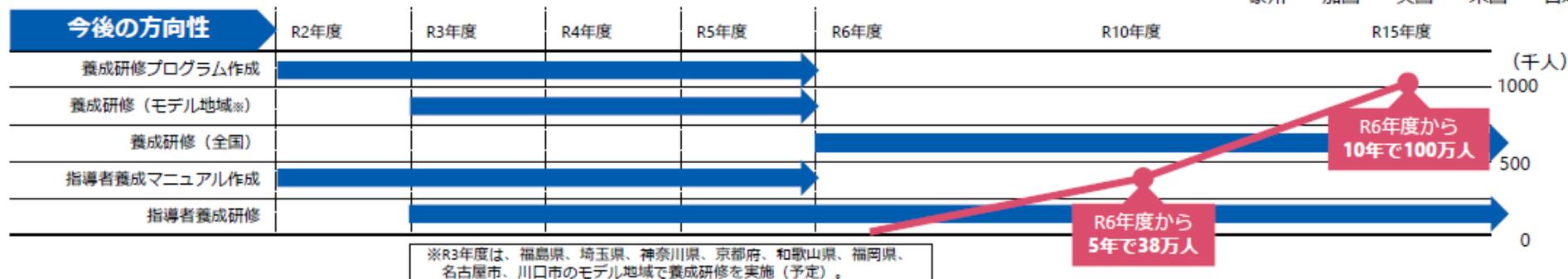
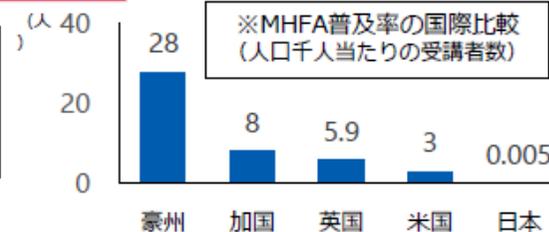
- MHFAのインストラクター及びエイダーであること
- 2時間の指導者研修を受講

◎心のサポーター

- 2時間の実施者研修を受講

心のサポーターとは

「メンタルヘルスやうつ病や不安など精神疾患への正しい知識と理解を持ち、メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚等に対する、傾聴を中心とした支援者」(小学生からお年寄りまでが対象)
⇒ MHFAの考え方に基づいた、**2時間程度で実施可能な双方向的研修プログラムを使用**(座学+実習)



つながりサポーター養成事務局 の設置に関するご相談



孤独・孤立^{対策}
官民連携プラットフォーム

(ご相談) つながりサポーター養成事務局の設置について

【前提】 つながりサポーターの継続的な養成にあたっては、これまで個別調達で進めてきた、実施主体との調整や受講状況管理の役割を担う“**恒常的な事務局機能**”の設置が必要

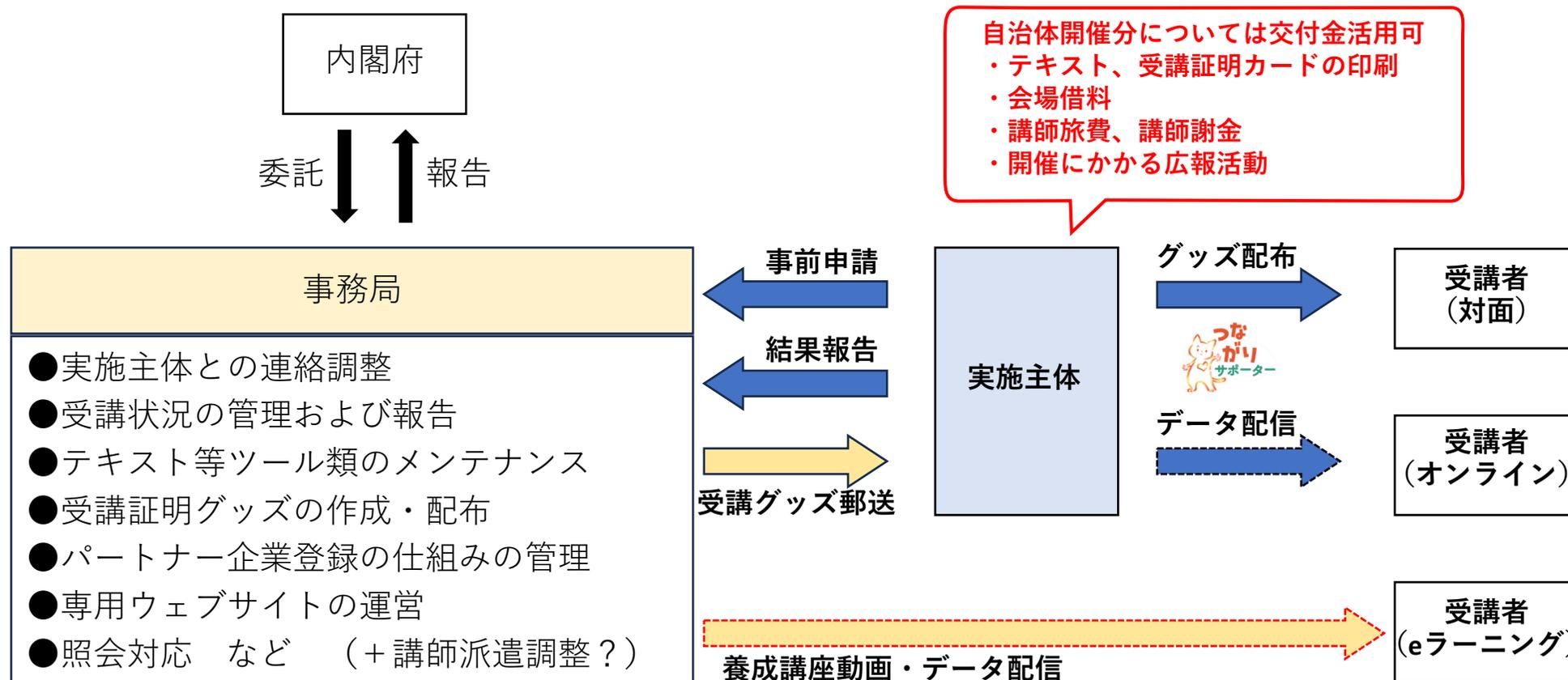
【課題】 一方で、事務局機能を担ってくれる団体の当てがない状態。

→ 【論点】 事務局機能を設ける場合、どのような団体に引き受けていただくか。

例) 調査研究事業の範囲内で受託業者（シンクタンク等）にて対応

例) 国PF事務局に追加業務として依頼？

〈つながりサポーター養成フローのイメージ〉



【振り返り】1/15の幹事会での議題

- ①月間特設メタバースの名称について【募集】
- ②月間特設メタバース空間での取組について（案）
- ③周知ポスターデザイン案について【共有】

みんなでアイデアを出し合って
良い月間にしよう！



意見が出なかったら
悲しいな。。

【月間特設メタバースの名称について】

令和7年度孤独・孤立対策強化月間においても
特設メタバースを設置し、「つながりサポーター養成講座」
「メタバース相談」「各団体の取組紹介」等の実施を予定

（案の1）ぷらっとば～す（R6年度と同じ）

（案の2）新しい名称とする

（例）・「ふわりんく」

・「ゆるりんく」

・「ぷらっとリンクル」

・「こころステーション」

・「ゆるぷら☆タウン」 など

（参考）R6月間特設メタバース「ぷらっとば～す」

開設期間：令和6年5月1日（水）～5月30日（木）午前10時～午後6時
※5月2日（木）～6日（月）は相談窓口の受付時間に合わせて開設時間を22時まで延長



⇒事前にメール等で幹事団体に意見を募り、3/19（水）幹事会にて決定予定

※新規の名称案については既存の商標との関係で問題がないか要調査

※幹事会で決定に至らなかった場合はメールにて決選投票

【引き続き募集】特設メタバーズでの取組について

- 5/2（金）～11（日）までの10日間、特設メタバーズ上を開設し、毎日何らかのイベントを開催
- そのうち、GWを中心とした期間は孤独・孤立相談（電話・チャット・メタバーズ相談等）を実施予定
※ 5日間程度を想定。詳細については分科会3において議論
- その他の期間、NPOや企業等、各団体の参画を得て、各団体の取組を紹介する下記のようなイベントを開催
- **幹事団体のみなさまに対しても、1団体につき少なくとも1企画への参加を依頼**
※参与の部屋（大西参与との対談）を含む。つながりサポーター養成講座の開催などメタバーズ外の取組も歓迎

（案）オンライン空間のブースにおける各団体のイベントの例

※各団体のウェブサイト上の企画へのリンクを貼る形での参加も可能

各団体の活動について紹介する
動画やスライド資料等の展示



双方向型の展示

各団体の活動についてクイズ形式などで
インタラクティブに展示



オンラインイベント（講演会）

各団体の孤独・孤立対策の取組や
目指すビジョン等についてZoom等で語る



オンラインイベント（トークセッション）

複数団体がコラボし、Zoom等で
トークセッションを実施



オンラインイベント（体験）

動画配信を見ながら運動、音楽の演奏、
芸術鑑賞など、体験型の企画を実施



リアルイベントの中継

期間中に実施されるリアルイベントを
Youtube Live等で配信



ハイブリットイベントの実施

リアルイベントを中継しながら、
オンライン会場の参加者と交流



協力ゲーム応援イベント

複数人が協力して実施するゲームの
中継を見ながら、ボタンを押すなどして応援
※ゲームは日ごろの活動の中で実施しているもの等

